

LPガスCP速報(2023年1月積)

1. 1月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **590** ドル (前月比-60 ドル)

ブタン **605** ドル (前月比-45 ドル)

① LPガススポット市況等

原油市況が軟化するなか、LPガス市場をみると、本格的な需要期入りも供給が潤沢、市況は軟化した。寒波の到来で暖房需要が増加、中国コロナ規制緩和で石化需要の回復が期待されたが、感染拡大で先行き不透明。ボトルネックとなっていたパナマ海峡の滞船は緩和、米国産も見通しが立つようになった。中東市場は、堅調なインド、東南アジアの需要でブタン高が顕著になってきた。極東CFR市況は第4週にプロパン610 ドル 、ブタン620 ドル まで軟化した。

米国市場をみると、輸出は堅調、高水準が続き、需要は寒波の影響で需要が回復、全米プロパン在庫は2週連続で減少したが、14週連続で前年同期を上回り、5年平均を上回った。全米を襲った冬の嵐で製油所が停止、供給懸念が市況を押し上げる場面もあった。モンベルビュープロパンスポット価格は、高水準在庫を受けて下落、原油市況の軟化から第2週、第4週には350 ドル/トン を割り込み、月間平均は前月比80 ドル 下げの360 ドル/トン どころ (グラフ①)、前年同期比180 ドル 以上低い水準となった。

フレート市況は、史上最高値を更新した前月から軟化、第4週は中東～極東120 ドル 、米国～極東175 ドル どころで25～30 ドル 下落した。20日以上となっていたパナマ運河の通峡日数は緩和に向かったが、再び滞船日数は増加傾向。中東市場は相場の過熱感が嫌気されたが、インドの船舶需要のほか、冬場の需要期を迎えスポット販売需要の高まりからタイト気味が続くもよう。

ナフサ市況は軟調、月間平均は前月比54 ドル 反落の643 ドル どころ。原油市況の軟化を受け上旬には620 ドル 割れとなった。コロナ規制緩和も中国はじめ石化の需要回復は遅れている。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比35 ドル 反落の385 ドル となった。一方、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同114 ドル の大幅続落で923 ドル どころ、低水準在庫により高騰していたガスオイル価格も3ヶ月ぶりに1,000 ドル 割れとなった。

1月CPは前年同月比プロパン150 ドル 、ブタン105 ドル それぞれ下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン横ばい、ブタン3ポイント上昇、前年同月比ではプロパン31、ブタン25ポイント低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	142	140	139	119	135
CP先物指標:P	600	580	560	580	580
CP先物指標:B	600	580	570	590	585

② 原油市況等

12月の原油市況をみると、月間平均では2ヶ月連続の下落が濃厚、一時、昨年12月以来の安値を記録し、ロシアのウクライナ侵攻以来の上昇を打ち消した。原油市況の重石となっているのは、欧米中央銀行の利上げに伴う景気後退懸念。中国のコロナ規制緩和による需要回復期待は感染拡大で後退している。一方、12月に対ロシア制裁として原油の上限価格導入措置が発効され、ロシアは対抗措置として上限価格を設定した国には2月から輸出禁止措置をとる。

米国の原油生産量は2020年4月以来の1,200万b/d超が続き、原油・石油製品輸出は過去最高水準となっているが、石油製品在庫は留出油を中心に超低水準。キーストーンパイプラインが原油漏出事故で稼働停止、メキシコ湾岸製油所への供給懸念が市況を押し上げる場面もみられた。現行マーケットは需給タイトとリセッション懸念で綱引きが行われているが、ポジション縮小が顕著で流動性が低く、ボラティリティが高い状況が続いている。

○12月積みアラビアン・ライト(12月1～29日までの想定)は83.00 ドル (前月比-9.03 ドル)

熱量等価AL100% プロパン680.51 ドル/トン ブタン671.18 ドル/トン

AL比 プロパン86.70% ブタン90.14%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

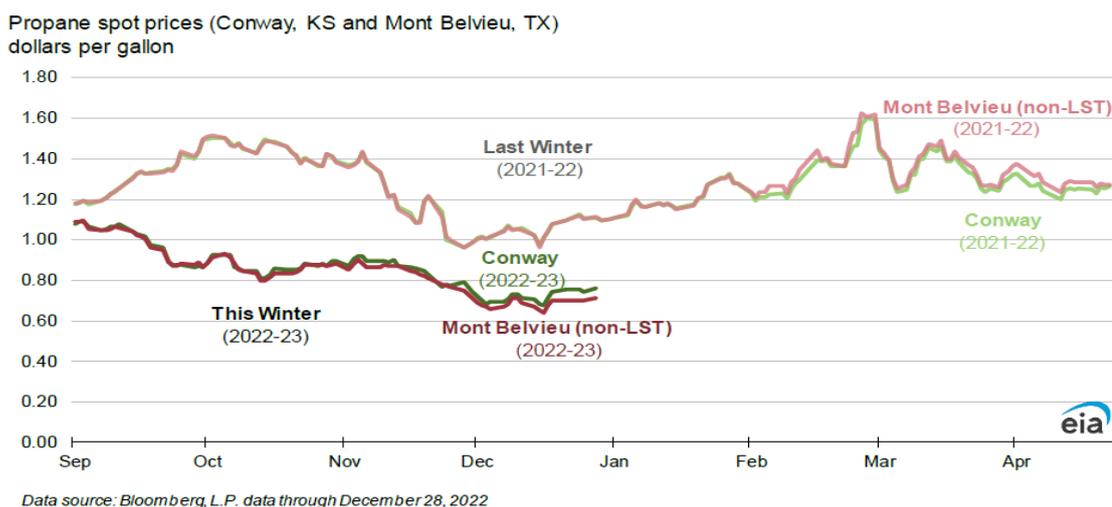
2. 2023年1月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
①20日締め	138.46	91,800	98,600	-10,100	-6,100
②末日締め	136.09	90,500	97,600	-9,700	-5,700

*TTS平均等について、①が11月21日～12月20日、②12月1～30日までで想定。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①、②ともに中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。

なお、上記MBは12月23日までの価格を基にEINで試算（354ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

①米国プロパンスポット価格推移



②米プロパン在庫推移(全米・メキシコ湾)

